

平成 29 年 9 月 22 日
大分工業高等専門学校

平成 29 年度 足踏みミシン修理・贈呈事業報告

1. フィリピン共和国での活動

1-1 渡航者 (教職員)

氏 名	所 属・役 職
田中 孝典	都市・環境工学科 教授
岩本 光弘	技術部 設計創造室 室長

(学生)

氏 名	学 科・学 年
兒玉 峻暢	都市・環境工学科 3 年
深瀬 湧	都市・環境工学科 3 年
本村 理香子	都市・環境工学科 3 年
手島 萌	都市・環境工学科 3 年

1-2 行程

日 時	業 務
9/12(火)	移動 (大分 — 福岡 — マニラ)
9/13(水)	足踏みミシン修理技術の指導と交流会
9/14(木)	現地視察 (贈呈ミシン利用状況等)
9/15(金)	予備日
9/16(土)	移動 (マニラ — 福岡 — 大分)

1-3 活動概要

① 9/13(火)は、Pampanga 州 Magao Concepcion Tartac 地区の多目的センターに於いて足踏みミシン修理技術の指導と交流会を実施した。同地区の人口は約 2,000 人、家屋数は約 300 棟、産業は農業のみで、道路は未舗装、生活水は井戸水で上下水道などの社会インフラは全く整備されておらず、河川の汚染状況および貧弱な家屋からも生活環境は劣悪であった。また、屋外で裸足の子供達が少なくないことも、同地区の貧困さが伺われた。足踏みミシン修理技術の指導は、渡航学生 4 名が 2 グループ (1 グループ ; 2 名) に分かれて、以前、同地区に贈呈した足踏みミシンを用いて、今年 10 月に足踏みミシンを贈呈する新たな 4 箇所 (Laguna 地区, Antipolo 地区, Ifugao 地区, Magao 地区) の責任者達に対して修理技術の指導を行った。

修理技術の指導後、渡航学生は地区の子供達を含む住民達および本活動に参加を希望した大分県フィリピン友好協会マニラ事務所内で日本語を学んでいるフィリピン人の生徒13名と交流を行った。



Tartac 地区



修理技術の指導



交流会

② 9/14(水)は、過去に贈呈した足踏みミシンの利用状況を確認するために、昨日に活動を行った Tartac 地区を訪問した。

同地区の区長秘書によると、これまでは、7月～9月の農作物の収穫時期を除く時期は、各家庭は無収入の状況であったが、5年前に本校から贈呈した足踏みミシンを用いた、日常の衣服、学生服など縫製品の作製と販売により、現在は各家庭において安定した収入が得られており、また、貧困で学校に通えなかった子供達が学校へ通えるようになったことなど、その地区の生活および教育支援に大きく貢献していることから、本校から贈呈した足踏みミシンには大変感謝している、とのことであった。



2013年に贈呈した足踏みミシンに貼ったステッカー



贈呈した足踏みミシンの利用状況

2. フィリピン共和国への足踏みミシン輸送

平成 29 年 8 月 8 日、本校より修理した足踏みミシン 30 台を大分県フィリピン友好協会が運営している地域自立支援センター（フィリピン共和国 マカティ市内）に向けて輸送しました。

輸送した足踏みミシンは、Laguna 地区に 5 台、Antipolo 地区に 10 台、Ifugao 地区に 5 台、Magao 地区に 10 台を贈呈する予定です。



足踏みミシンの搬出